

平成 26 年度

## 事業説明資料（事後評価）

（水産関係公共事業の完了後の評価）

- ・ 侵食対策事業                      滑川漁港海岸                      富山県滑川市
- ・ 漁業集落環境整備事業              田野沢地区                      青森県深浦町

平成 27 年 2 月

# 滑川漁港海岸 海岸保全施設整備事業 (侵食対策事業)

# 滑川漁港海岸(富山県滑川市)の特徴と事業目的



## 地区の特徴

- 富山県中央部から北東よりに位置する富山湾に面した砂浜海岸。
- 海岸の背後は集落や農地で形成され、道の駅などの観光施設が立地。

## 事業目的

波浪等による砂浜の侵食が顕著であったことから、緩傾斜護岸、離岸堤等の整備により、侵食被害から家屋、公共施設、農地等の財産を防護することを目的とする。

## 滑川漁港の港勢(H23)

漁港地区人口	3,432人
漁協組合員数	195人
登録漁船隻数	34隻
利用漁船隻数	43隻
属地陸揚量	937トン
属地陸揚金額	449百万円
主要魚種	いか類(751トン) かに類(101トン)
主要漁業種類	大型・小型定置網、かご漁業

# 事業概要

事業主体:富山県

主要工事計画:護岸・緩傾斜護岸 L=2,923m  
離岸堤 L=2,177m

事業費:8,869百万円

事業期間:昭和44年~平成20年

凡例



離岸堤



護岸・緩傾斜護岸



集落



道の駅



農地

事業費89億円(昭和44年度~平成20年度)

# 事業概要



# 整備手順



昭和44年～昭和63年  
(背後集落の防護を優先して整備)



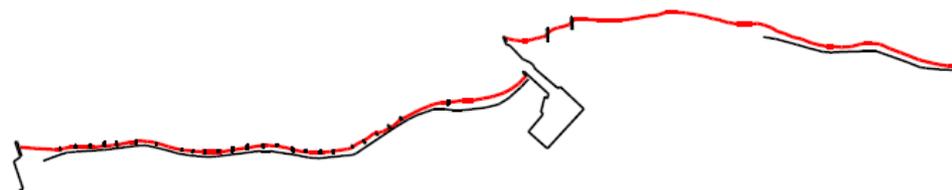
平成元年～平成20年  
(主に農地、林地を防護)

# 定量的な効果の概要

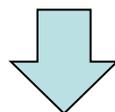
## 【侵食防護効果】

侵食被害が予想される地域内の土地、家屋、公共土木施設等の資産を評価し、被害軽減額を算定

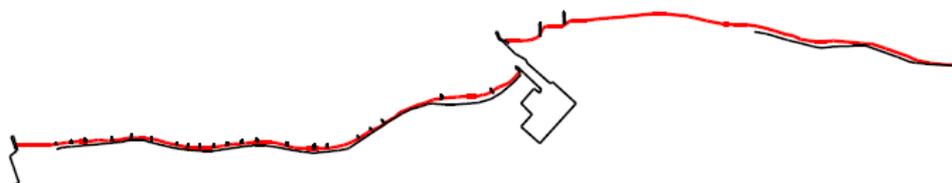
1966年



年間平均  $-2.0\text{m}$



1972年



年間便益額

= 土地資産、一般資産、農産物、公共土木施設、公益事業の年間被害額合計

= 5.35億円

# 事業評価

## <貨幣化した便益項目>

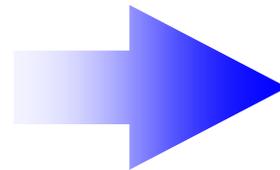
○海岸侵食による土地や資産の喪失が防護されることによる便益

## <貨幣化が困難な効果>

○道の駅等の観光施設が防護されることによる地域経済への寄与

総便益額:  $B = 32,013$  百万円

総費用額:  $C = 28,964$  百万円



$$B/C = 1.11$$

# 費用対効果分析結果

<b>事業費(億円)</b>	<b>88.7</b>
<b>整備期間</b>	<b>昭和44年度～平成20年度</b>
<b>便益(億円)(年単純合計)</b>	<b>5.35</b>
<b>総費用(C)(億円)</b>	<b>C=289.6</b>
<b>総便益(B)(億円)</b>	<b>B=320.1</b>
<b>費用便益比 (B/C)</b>	<b>B/C=1.11</b>

# 総合評価

事業は、冬季風浪などによる海岸侵食を防止するため、緩傾斜護岸等を整備することにより、背後地の家屋や公共施設等の財産を防護することを目的としている。整備後、海岸侵食が停止し、砂浜が形成されており、貨幣化が可能な効果について費用対効果分析を行ったところ、1.0を超えており、経済効果についても確認されている。さらに、事業効果のうち貨幣化が困難な効果については、観光関連施設の防護による地域経済への波及のような効果が認められる。

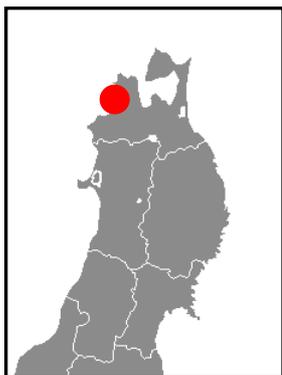
このように、本事業により、当初想定していた地域住民の財産や公共施設等の被害防止が図られていることから、事業の一定効果の発現が認められる。



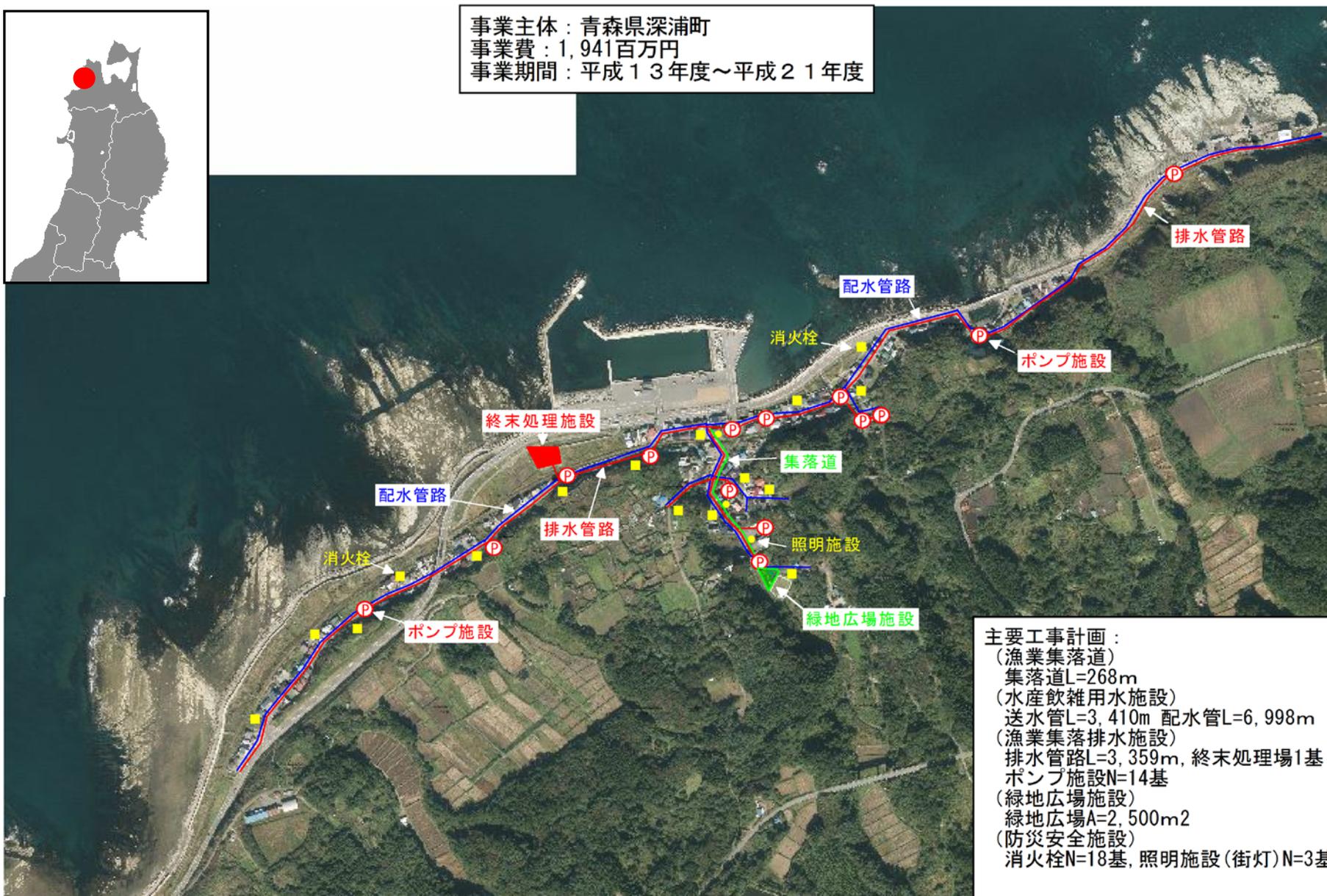
# 田野沢地区 漁業集落環境整備事業



# 漁業集落環境整備事業 田野沢地区 事業概要図



事業主体：青森県深浦町  
事業費：1,941百万円  
事業期間：平成13年度～平成21年度



主要工事計画：  
(漁業集落道)  
集落道L=268m  
(水産飲雑用水施設)  
送水管L=3,410m 配水管L=6,998m  
(漁業集落排水施設)  
排水管路L=3,359m, 終末処理場1基  
ポンプ施設N=14基  
(緑地広場施設)  
緑地広場A=2,500m<sup>2</sup>  
(防災安全施設)  
消火栓N=18基, 照明施設(街灯)N=3基

# 地区の特徴と事業の目的

## • 地区の特徴

田野沢地区は、田野沢漁港の背後集落であり、背後の山地と海岸線の間、JR五能線と国道101号に沿って東西に広がっている。地区内には名勝千畳敷が位置し津軽国定公園に指定され県内外からの観光客も多い。

## • 事業の目的

### ■ 水産飲雑用水施設、漁業集落排水施設

本地区は、水道整備未普及地区であり、飲料水については個人の井戸及び湧水を使用していたが、井戸等の濁水が多く安定した給水が課題であった。また、生活排水は、河川を経由して漁港海域に放流されていたため、水質悪化が深刻化していた。

そのため、安定した衛生的な水産飲雑用水施設の整備、漁業集落排水施設の整備を行うことにより、生活環境の改善を図るものである。

### ■ 漁業集落道、緑地広場、防災安全施設

整備前は、道路幅員が狭く一輪車等しか通行できなかったが、車両（軽トラック等）による漁具等の運搬や地域住民の往来が可能となり、漁業生産の向上に資するものである。また、緑地広場や防火水槽の整備することにより、漁業集落の快適で安全な環境整備を行うものである。

# 便益の算定

## 1 水産物生産コストの削減効果

- 集落道整備に伴う漁具等運搬時間の短縮
- 漁業集落排水施設整備に伴う洗浄海水の運搬時間の削減

## 2 生活環境の改善効果

- 集落道整備に伴う生活の利便性の向上
- 水洗化・衛生環境の改善による生活快適性の向上  
(地域住民が負担する衛生環境向上のための作業にかかる費用等の削減)  
(ハエ・蚊の発生防止にかかる費用等の削減(排水路覆蓋))  
(浄化槽の設置費用) (し尿処理の経費削減) (くみ取り経費削減)
- 緑地広場の整備による移動時間短縮

## 3 生命・財産保全・防御効果

- 防火水槽の整備費低減

## 4 自然環境保全・修復効果

- 水質保全効果 (港内水域及び周辺の海域の水質が改善、保全)

# 費用対効果分析

## 貨幣化した便益項目と便益額（現在価値化）

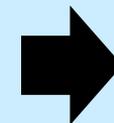
◆水産物生産コストの削減効果	593,745千円
◆生活環境の改善効果	2,968,975千円
◆生命・財産保全・防御効果	82,234千円
◆自然環境保全・修復効果	30,2697千円

## 貨幣化が困難な効果

- ①来訪者の快適性向上効果と経済波及効果
- ②緑地広場整備によるコミュニティや憩いの向上効果

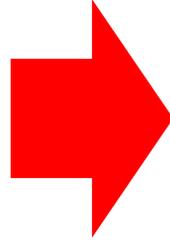
総便益額（現在価値化） B : 3,947,651千円

総費用額（現在価値化） C : 3,470,546千円



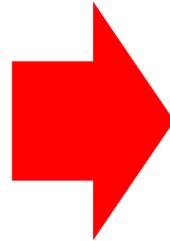
$$B/C = 1.14$$

# 漁業集落道



車両等の通行が可能に。

# 漁業集落道及び防災安全施設(消火栓)



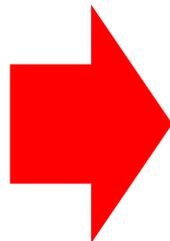
上下水道管の敷設とあわせて消火栓も設置。

# 漁業集落排水施設(終末処理場)



130世帯を対象に  
供用開始。

## 緑地・広場



緑地広場が利用  
可能に。